ヤマドリの個体識別の試み

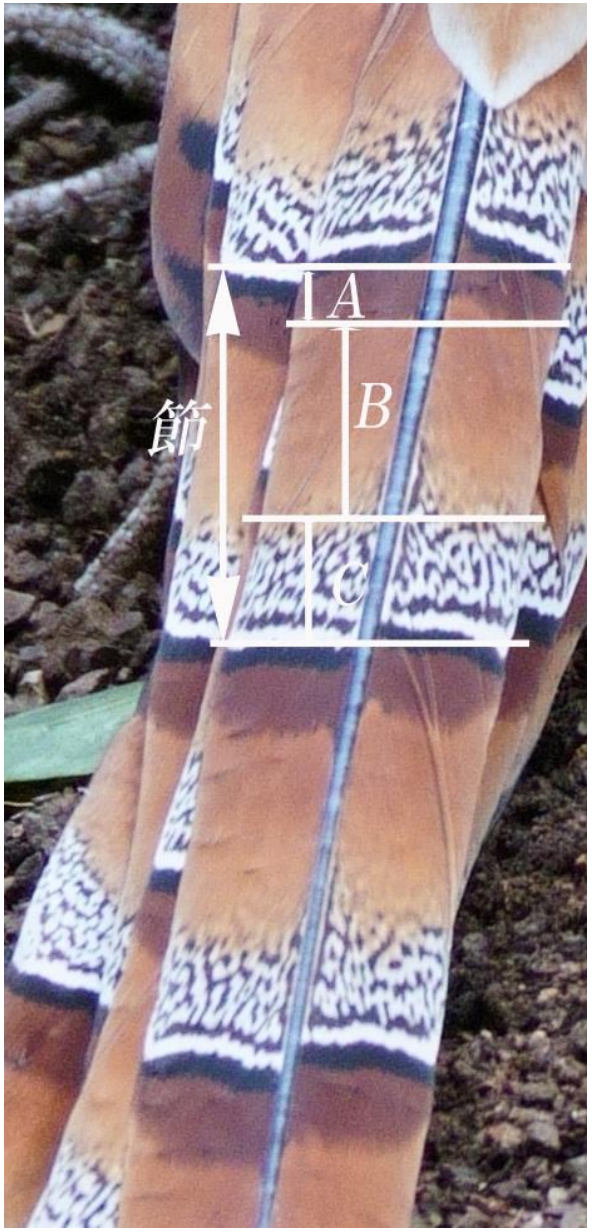
吉村　正則
（バードリサーチ会員）

はじめに（調査の背景）

- ヤマドリは、短期的には羽色や尾羽の長さ、顔に付いたダニの位置等で個体識別が出来るが、長期的になると難しい。
- しかし、尾羽の模様は、個体毎に違っているように見え、ここに注目すると、個体識別が可能ではないか？と考え、尾羽を中心に撮影した。
撮影は換羽期（7月上旬～10月中旬）以外のデータを用いた。
- また、全ての尾羽を撮影するのでは無く、主にT1の付け根の2節を撮影して比較した。
- 外観で個体識別が可能となると、寿命、移動距離などが解って来る。

顔は一瞬にして模様が変わるので個体識別には向いていない

体も撮影条件で色味が変わって来る



調査方法

シコクヤマドリ♂の尾羽の節は図のようにA、B、Cの部分に分かれている。

個体により、A～Cの幅、色、豹柄の模様等が異なっているのでは？と考え、2017年3月～2023年11月まで、香川県中讃地域において、比較的出て来る場所にブラインドを張り（計16箇所）、最低でも1回/2週間の割合で、尾羽の付け根側から約2節を解るように撮影した。

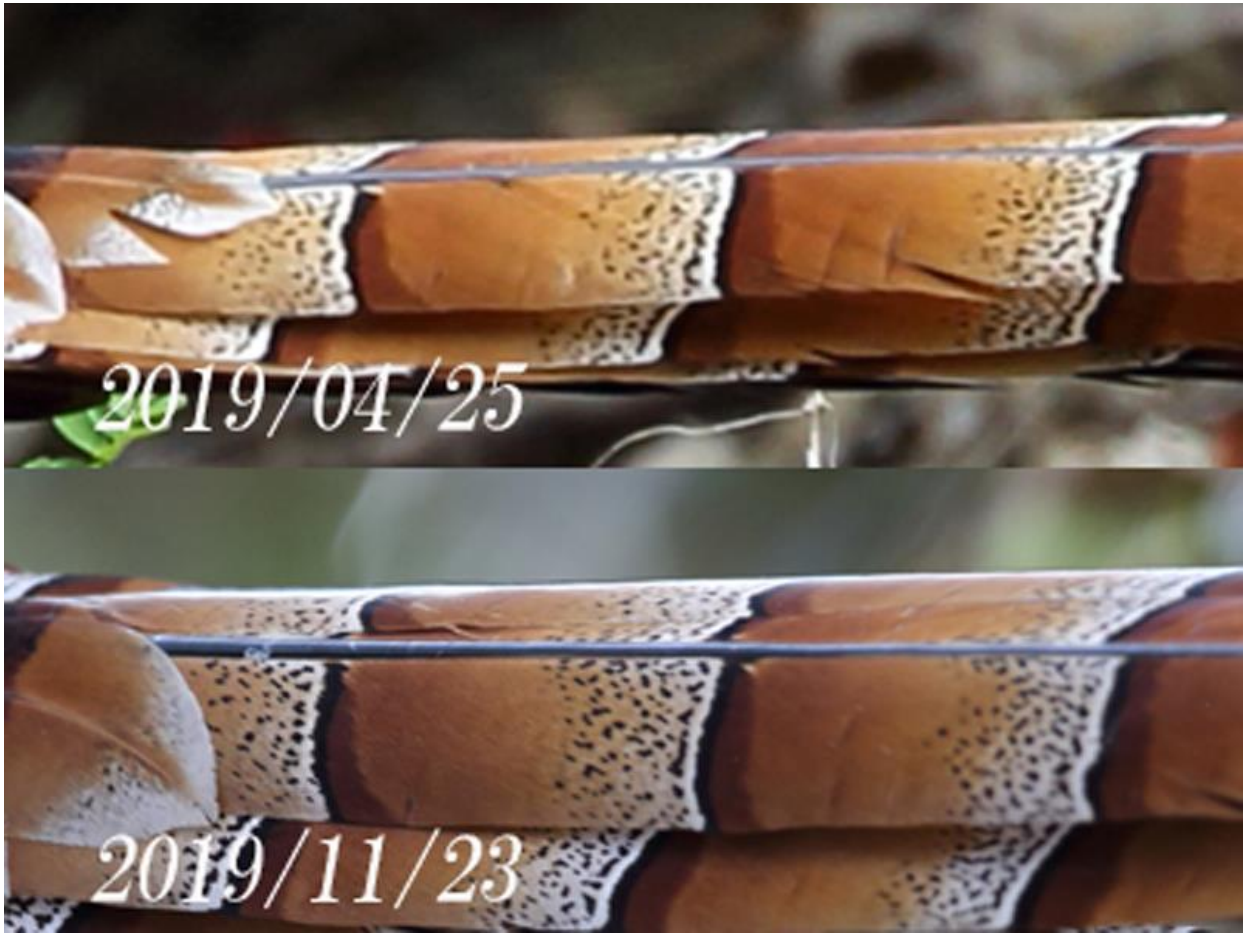
結果①・12例（左が体側）

様々な模様を呈している

結果②　異なる模様の例（距離と年）

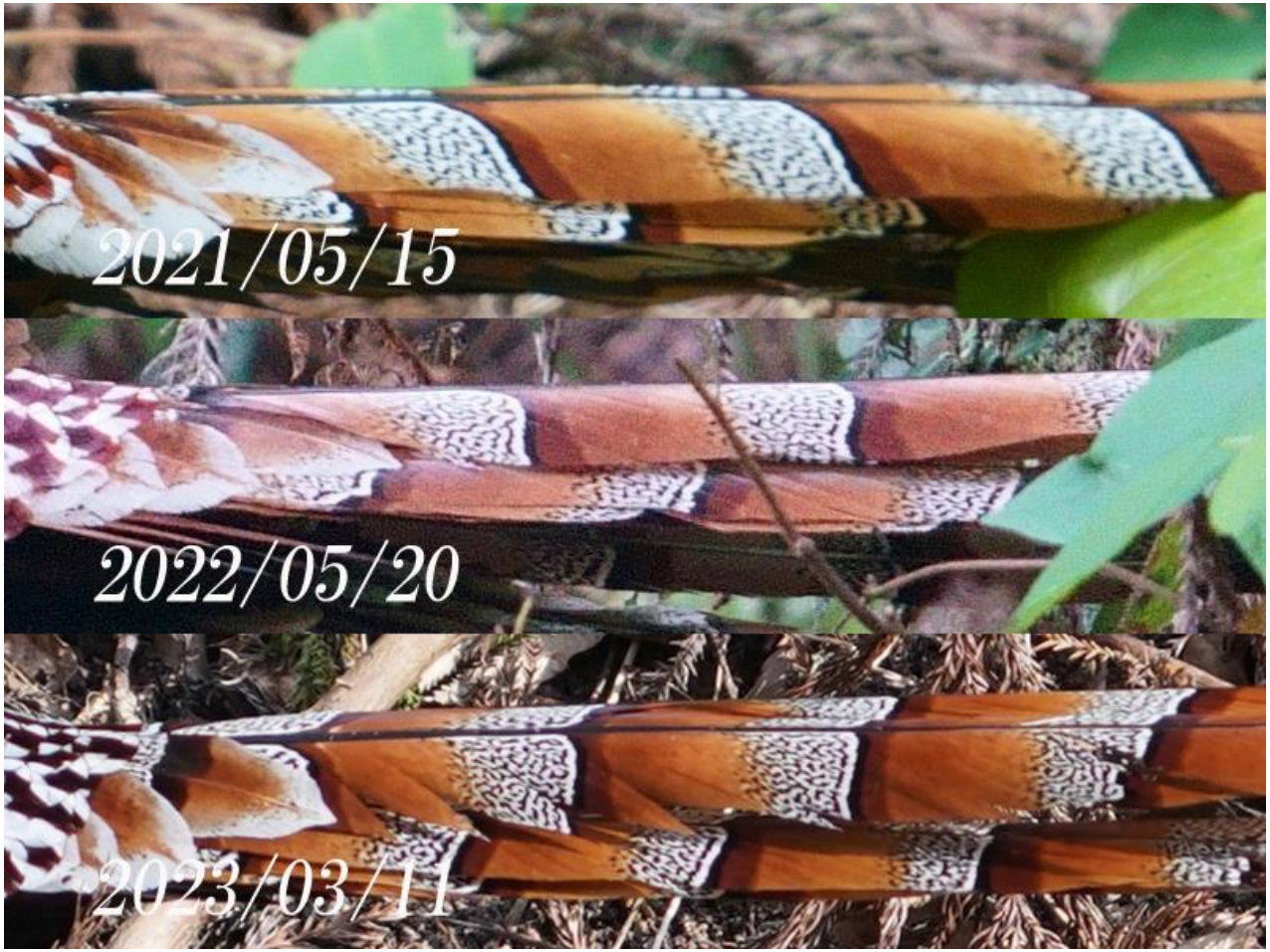
左はN地点とS地点（約8.3Km）、右はN地点の2019年と2023年

結果③　N地点（2019年・換羽前後）



換羽前後も同じ模様を確認した

結果④・S地点（2021年～2023年）



数年にわたり同じ模様を確認した

結果⑤　移動例

※ヤマドリの行動範囲はわずか1～2haほどで、年間を通してせいぜい10haとの報告があるが、1～2週間ほどで350m、500mほど離れた地点で観察した。

同じシーズンで100mほどしか離れていないのに別個体を観察した例も3例あった。

※川路則友（2023）　出会えるとうれしい日本固有種ヤマドリ　野鳥866号　日本野鳥の会　2023、p.13

考察と今後の展望

- 姿形が似ている鳥を換羽後も個体識別できるのは、寿命、縄張り等が解り、利点は大きい。
- 観察例が少なく、正確なデータが取れていないのかも知れないが、地形や個体数により、思っている以上に行動圏が広いのかも知れない。
- まだまだ観察例が少ないので、もう少し例数を増やしていきたいと考えている。

J